

二〇二一年度 一般二月入学試験 二月五日

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

5

48

)

第一問 次の文章は梅崎春生の小説「魚の餌」の一節で、魚釣りの餌であるゴカイを盗まれた「僕」が、犯人と思われる兄弟が釣りをして見つけた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

僕が近づくと、二人は急にキン張⁽¹⁾したようだった。かたくなに僕の方を見ないようにして、ことに弟の方は背をかたくして、あきららかにおそれに満ちた表情でそっぽを向いている。子供の餌箱の中には、僕のと大体同じ型の同じ大きさのゴカイが、ぐにやぐにやともつれ合っていた。そして子供の浮子^(注)がビクッと大きく動いた。

「そら、引いてるじゃないか」

そう僕は言いかけて、途中で止めた。兄は釣り竿^(ざお)を上げようとはしない。じつとしている。浮子が動かなくなつて、それからそろそろと竿を上げた。糸の先は針ばかりになっている。餌をとられたのだ。

「バカだな。すっかりしろ」

そう言おうとして、僕はやはり言わなかった。⁽²⁾向こうも内心ジタバタしているが、別の意味でこちらもジタバタしている。その意識が急に僕の口辺^(くちべ)を硬^(こわ)ばらせた。僕はそのまま背を向け、振り返らず、まっすぐに防波堤を岸の方に歩いた。防波堤は岸に近づくにつれて低くなり、満潮時だから海水に没している。膝頭^(ひざかぶ)までひたす海水を、はねのけるような気持ちで進みながら、何だかやり切れない感じがしだいに強くなつて来た。子供たちからなめられたような気がしたのか、子供の所業^(しやく)がしやくにさわつたのか、またその所業を見逃した自分がやり切れなかったのか。そしてあいつ等は、餌を盗むのに、⁽³⁾沢山^(たくさん)の中からよりによってこの俺^(おれ)をえらんだ。どういう目安で俺に白羽⁽⁴⁾の矢を立てたのか。そういうことを考えることは、あまりユ快なことはなかった。連れでもいたら、その連れに話すことで、幾分気持ちは軽くなるだろうが、僕はその時ひとりだった。口下手な僕は、ことにそ

の頃は性質も湿つていて、防波堤でもどの常連とも会話すら交わしたことはなかったのだ。

まあその日から一週間ばかり経った。やはり曇ったような天気の日だ。前の日とちがって、魚の当たりが悪かった。潮加減がよくなかったのだろう。僕は朝から釣れないでいい加減(6)きつていた。その上岩にひっかけて、糸を何本も切らしていた。昼の弁当を食い終わっても、僕の魚籠(びなご)はほとんど空だった。そこでもう今日は止めて帰ろうと思ったのだ。

そしてふと振り返った時、そこにこの間の子供がいたのだ。この前と同じように、兄弟並んで、ぼんやりと海を眺めている。

その時僕は、ほとんど無意識に、そして彼等に気付かれないように、自分の餌箱を脇(わき)に引き寄せていたのだ。次の瞬間、その自分のやり方が急にあらあらしく僕に反発してきた。れいのジタバタが始まった。

「ふん」

と僕は思った。そんならあの子供たちに、今日はこちらから餌をわけてやる。そんな思いつきかとたんに頭をかすめた。もうどうせ帰るのだから、残りのゴカイは不用なわけだ。ゴカイというやつは、とても条件を良くしないと、翌日まではもたないのだ。

僕は立ち上がった。餌箱をぶら下げて、ためらわずに兄弟に近づいて行った。

登音(あしおと)を聞いて、兄弟は振り向いた。警カイ(9)するように二人の表情は突然するどくなつた。兄の方は、よりそってきた弟をかばうように、身体を動かして構えた。(10)その兄の眼付きは、僕をたじろがせるほど烈(はげ)しかった。

「餌をやるうか。え？」

さり気なく言つたつもりだが、あるいは兄弟はその語調のうらに、なにか底意を感じたのかも知れない。(11)

「餌がないのだろう。いらないのか」

子供の傍(そば)の餌箱は空で、底には少量の泥がかさかさ乾いている。兄は警カイの色をますます深め、じつと僕をにらんでいる。弟の方の顔はしだいにくずれて、今にも泣き出しそうな顔になった。しかし泣き出しはしなかった。眼をキラキラさせて、唇を噛みしめている。僕はしだいに自分のこんなバカな思い付きを後悔し始めていた。しかしこのままではひっこみがかない。(12)僕

は少しいらだつて来た。

「餌、欲しくないのか」

笑って見せようとしたが、笑い顔にならなかったかも知れない。僕は餌箱を眼の前につき出そうとした。その時突然、兄の方がいやにはつきりと答えた。

「いらん！」

そうか、と僕は言い、しかし俺はもう帰るし、どうせ餌は捨てるんだから、要るのなら置いてゆくよ、とまだ言い終わらないうちに、

「いらん」

とも一度兄が言った。ほとんど同時に弟が唇を曲げるようにして、

「いらぬぞ」

とつけ加えた。兄の声は、前ほどつつけんどんではなく、やや弱々しくひびいた。そうか、としかし僕もすこしむっとした。しばらく視線を合わせていたが、僕は突き出した餌箱の⁽¹³⁾恰好がつかず、そのままゴカイを⁽¹⁴⁾放り出すようにして海面に捨てた。三人の視線は一度にその方に動いた。

赤くもつれ合ったゴカイは、ひとかたまりのまま緑色を帯びた海水に落ち、そこでやわらかくほぐれ、数条の赤い模様をつくり、美しく伸び縮みしながら、しずかに沈んで行った。沈んで見えなくなるのを見届けて、僕は子供に背を向けた。

海沿道を歩いて帰りながら、僕はしだいに心が重かった。そして僕はあの貧⁽¹⁴⁾ソウな兄弟のことをやはりあれこれと考えていた。たとえばあの子供たちは、父が居ない、母親だけのうちじゃないのか。そして彼等が釣って来る魚が、重要な家計の足しになると言ったような。いつも餌を使い果たしているのも、充分に餌を買うだけの余裕のないやりくりではないのか。

しかしそれはことごとく、僕の感⁽¹⁵⁾シヨウのジタバタだったんだらう。つまり現実の摩擦を避けるために、僕の打った手が、逆に僕を惨めにしたに過ぎなかったのだらう。そしてその日以来、僕はその防波堤に行くのを止めた。釣り場を他⁽¹⁶⁾に移してしまっ

たのだ。だからその子供たちとも、もう顔を合わせたことはない。

それから十年経つ。あの兄弟も生きていれば、もう二十歳を越しているわけだ。僕が時々あの子供たちを思い出すように、あの兄弟も僕を思い出すだろうか。思い出すと仮定して、その思い出される僕自身のこと、彼等の眼に映った僕の拳動や表情や声音を思うと、僕は今でもちよつとやり切れなくなってくる。

(梅崎春生「魚の餌」による)

(注1) 浮子——釣り糸につけて、魚が餌を食べていることがわかるようにする小片。

(注2) 魚籠——釣った魚を入れておく籠。かご

問1 傍線番号(1)・(5)・(9)・(14)・(15)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1
┆
5

(1)

キン張

- ① キン整のとれた体つき
- ② 発酵は細キンの働きで起こる
- ③ キン欲的な生活を送る
- ④ 不況に備え財政をキン縮する
- ⑤ 胸キンを開いて話し合う

(5)

ユ快

- ① 完全に治ユする
- ② 勝利にユ悦する
- ③ 生徒を説ユする
- ④ 武器を密ユする
- ⑤ 車に給ユする

(9)

警カイ

- ① 政治的なカイ入を拒む
- ② 仏門に入りカイ名を授かる
- ③ カイ滅的な被害をもたらす台風
- ④ 青年期のことを述カイする
- ⑤ 三年間をカイ勤で過ごす

(14)

貧ソウ

- ① 成否が彼のソウ肩にかかる
- ② ソウ儀が滞りなく終わる
- ③ 弁護士として法ソウ界で生きる
- ④ 離別のソウ失感に涙する
- ⑤ ソウ似の凶形を指摘する

(15)

感シヨウ

- ① 臨時国会がシヨウ集される
- ② 意シヨウを凝らしたデザイン
- ③ 部活動中に負シヨウする
- ④ 他部署との折シヨウを重ねる
- ⑤ 割ったガラスを弁シヨウする

問2 傍線番号(2)「向こうも内心ジタバタしている」とあるが、どのような様子を表しているのか。その説明として、最も適切

なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

6

- ① 無言で近づいてきた「僕」の様子から、自分たちが餌を盗んだ罪の重さに気づいておびえ、言い逃れを必死に考えている兄弟の様子
- ② 餌を盗んだことを「僕」がとがめにきたのではないかと内心でおそれ、無関心を装いつつも、なんとか罪を逃れようと躍起になっている兄弟の様子
- ③ 餌を盗まれた「僕」が犯人捜しのために近づいて来たことに気づき、なんとか許してもらえない方法はないかと苦慮している兄弟の様子
- ④ 餌が盗まれたことに立腹している「僕」をどうにかしてなだめようと思いつつ、うまい言い訳が思い浮かばずに、いらしている兄弟の様子
- ⑤ かかわり合いを持ちたくないと思っている「僕」に、大切な釣りの邪魔をされるのは嫌なので、早く立ち去ってほしいとやきもきしている兄弟の様子

問3 傍線番号(3)・(4)・(6)・(8)・(13)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。
7
11

- (3) しゃくにさわった
- 7
- ① 腹立たしかった
 - ② 特に気がかりだった
 - ③ 賞賛に値した
 - ④ 同情を引いた
 - ⑤ 目ざわりだった

- (4) 白羽の矢を立てた
- 8
- ① 攻撃的に接した
 - ② 優越感を抱いた
 - ③ 好意的に話しかけた
 - ④ 対象を選んだ
 - ⑤ 嘘をつきとおした

- (6) くさっていた
- 9
- ① やけになっていた
 - ② 気持ち沈んでいた
 - ③ 面倒になっていた
 - ④ じっとしていた
 - ⑤ 止めたくなっていた

(8)

頭をかすめた

10

- ① 頭の片隅に追いやられた
- ② 頭の中でいっばいになった
- ③ 頭の中によみがえった
- ④ 頭の中に一瞬浮かんだ
- ⑤ 頭の中に浮かんだり消えたりした

(13)

恰好がつかず

11

- ① 見た目が悪くて
- ② 当てがはずれて
- ③ 言い訳が出来なくて
- ④ 不安感がぬぐえず
- ⑤ おさめどころがなく

問4 傍線番号(7)「その自分のやり方が急にあらあらしく僕に反発してきた」とあるが、その説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

12

- ① 魚の餌など自分にとってはいらないものではないのに、子供たちにそれを盗まれたくはないと考える自分の狭量さに気づいて、自己嫌悪を感じている
- ② 釣りをするうえで大事な餌を盗もうとしている子供たちに対して、不必要に神経をとがらせている自分の大人げなさを自覚して、自暴自棄になっている
- ③ 午前中全く魚が釣れず、もはや帰ろうかと思っていたにもかかわらず、明日までもたない餌に、なおも執着する自分の愚かさに嫌気がさしている
- ④ 子供たちが魚の餌を盗んだのは貧しさから仕方なくやったことだと知りながら、それでも魚の餌を盗むという行為を許せない自分に対して腹が立っている
- ⑤ 自分自身は子供たちに餌をあげたくも盗まれたくもないと思っている一方、捨てきれない自分の良心が餌をあげてもよいではないかと感じていることに戸惑っている

問5 傍線番号(10)「その兄の眼付きは、僕をたじろがせるほど烈しかった」とあるが、その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 自分たちが餌を盗んだと思っている「僕」が近づいてきたので、あやしく思い、弟を守ろうと必死になっている
- ② 餌を盗んだにもかかわらず、餌をくれると言う「僕」を不信に思い、弟がだまされないよう神経をとがらせている
- ③ 突然近づいてきた「僕」に内心おびえているが、そのことを弟に知られないためにわざと攻撃的な態度をみせている
- ④ 餌を盗まれたことを怒っている「僕」が、弟に危害を加えようとしていることを見抜き、気迫で追い返そうとしている
- ⑤ 深い事情があつて餌を盗んだにもかかわらず、そのことを許してくれそうにない「僕」を心の底から嫌悪し憎んでいる

問6 傍線番号(11)「兄弟はその語調のうらに、なにか底意を感じたのかも知れない」とあるが、この時「僕」が予想した兄弟の

心理を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 「僕」のさり気ない口調は本当は餌を盗んだ犯人を捜すためのものだったことを察し、しらを切り通す決意をしている
- ② 「僕」が子供の機嫌を取ろうとわざと落ち着いた口調で話しかけたのを不快に思い、大人の嫌らしさを感じ取っている
- ③ 無理にさり気なさを装う話しぶりから「僕」の心の奥底に隠された真の怒りを見透かし、「僕」に恐怖感を抱いている
- ④ 「僕」の話し方が餌を盗まれて気分を害した人のもとは違ったので、何か別の意図があるのではないかと疑っている
- ⑤ 「僕」が穏やかな口調で話しかけてくれたので、自分たちの境遇に思いを巡らせてくれたのではないかと期待している

問7 傍線番号(12)「僕は少しいらだって来た」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適切なものを、次の①～

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 自分の申し出を子供たちにはつきり拒絶され、子供たちにばかにされたような気分がしてきたから
- ② 自分の申し出が子供たちを苦しめていることに気づいてショックを受け、気持ちが悪くなったから
- ③ 自分の申し出を誤解し、せっかくの好意を無にしてしまった子供たちに怒りを覚え始めたから
- ④ 自分の申し出は相手を傷つけるものでしかないことに気づかされ、不快な気分になってきたから
- ⑤ 自分の申し出が予想に反して受け入れられず、思い通りにいかないことに腹が立ってきたから

問8 傍線番号(16)「僕はその防波堤に行くのを止めた」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 子供たちに受け入れてもらえなかったので、防波堤でまた子供たちに会うと非難してしまうと思ったから
- ② 子供たちによく接することができなかった自分が情けなく、子供たちと顔を合わせたくないと思ったから
- ③ 貧しい子供たちを救うことのできなかった自分に絶望し、子供たちと和解することができないと悟ったから
- ④ 貧しくて生活のために釣りをする子供たちの境遇を思うと、波止場では釣りが楽しめないと思ったから
- ⑤ 子供たちと不仲の自分が波止場に行けば子供たちが釣りを楽しめないと思い、子供たちに遠慮したから

問9

十年を経た時点で、「僕」の中で一連の出来事はどのようなものになっているか。その説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

17

- ① あの兄弟に優しく接してやれなかったことを思うと当時の自分に我慢がならず、兄弟も自分のことを決して許してないだろうと、苦い思い出となっている
- ② 十年前の出来事に際して当時はやるせない気持ちになったただだが、時が経ち、当時の大人げない言動を反省してあの兄弟に謝罪したい気持ちになっている
- ③ 兄弟に餌を盗まれた出来事は憂鬱ゆううつな出来事であり、暗かった過去を想起させるものなので、時々しか思い出したくないものになっている
- ④ 十年の時を経ても、出来事が起こっている最中にも感じていた自らの行為に対する後悔や自省の念にかられてしまう、心の中のわだかまりとして残っている
- ⑤ 出来事が起こった当時はあの兄弟に対して怒りを感じていたが、今となっては、子供たちのその後を案じることができなくなるぐらい心に余裕ができてきた

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

〈遅れ〉を取り戻すことは難しい。⁽¹⁾ 固有なものと一般的なものの距離を媒介して生じる〈遅れ〉は、個を個のままに保つ必要物であり、固有性の意識を高めることさえある。この点は、現在の世界各地で声高に自己を主張する民族主義や国家主義の多くが、自分を被害者として、遅れた走者として物語ることからもうかがえる。決定的な問題は、〈遅れ〉が個別性の意識を高ヨウ⁽²⁾させるときに、3、自己についてますます〈遅れ〉ながら語りつづけねばならない、という⁽⁴⁾ディレンマである。

たとえば一九七〇年に独立したフィジーでは、とくに八七年のクーデター以降、全土で「本当のフィジー人」(Kai Viti ndina)をめぐる議論が交わされてきた。議論の典型は、誇り高く勤勉で信仰に厚かった自分たちが、いつから現在のようにおのおの勝手に金稼ぎに追われるようになり、村のまとまりをなくして国家の政治レベルでも対立しあうようになったか、という類のものである。あたらしい経済活動に参入した自分たちが、その世界で立ち遅れているだけでなく、気がつけば昔のすぐれた点さえも失ってしまった、という二重の〈遅れ〉の認識が問題として提起されている。

語り手は一定の同胞と敵を設定しながら、〈われわれ〉(「本当のフィジー人」と〈彼ら〉(「道を踏み外した裏切り者」と対比させて、「本当のフィジー人」が過去から現在までをどう生きており、また現在から将来へとどう生きるべきかを表現しようとする。この場合、物語は同胞と敵をいかに⁽⁵⁾同定するかによっておのずと異なる。同定の作業は植民地化の前後から今日に至るまでの各地域内部の連帯と対立——亜氏族、氏族、大氏族、氏族連合などの間における——を⁽⁶⁾カイ顧することと不可分ののだが、問題は争いと裏切りが親密な関係にある集団間で頻繁におこなわれてきたために、同胞と敵の見極めもきわめて⁽⁷⁾的な様相を帯びざるをえないという点にある。

「本当のフィジー人」を語らしめた〈遅れ〉の意識は、過去を想起して一つの物語を紡がせるが、⁽⁸⁾裏側では抑圧された別の語りの群れがうごめき始める。提示されるはずの「本当のフィジー人」像は、敵味方の非決定性とアンビヴァレントな状況のために⁽⁹⁾欠如感につきまとわれ、人々は刻々と移り変わる政⁽⁹⁾ジョウの中で「本当のフィジー人」としての物語を次々と披露していく。

あるときは隣接氏族の首長の意に背いて植民地政府と戦った自分たちの過去のケン⁽¹⁰⁾勢を誇示し、のちにはその同じ氏族と助け合
って貧しさを分かち合った思いやりを強調する、という具合である。話のズレを指摘された語り手は「あれもこれも正しい」と
返すが、一つの語りが満足できる自画像を提起しきれずにさらなる語りを生んでおり、その語りがなおも別の語りを求めている
様子がみとれる。

⁽¹¹⁾問題は、「本当のフィジー人」が一つの語りにおさまりきらないということではない。それは当たり前であって、注意を喚起
したいのは自画像の一元化が不可能であっても、〈遅れ〉の意識が「本当のフィジー人」を従来にないほど問題視させており、
理想の自我を一つの語りへと収斂⁽¹²⁾させる強い感情を産み出している点である。この感情が高じると、許容してきた自己内部の曖
昧⁽¹³⁾や矛盾を強引に一元化して、統一⁽¹⁴⁾的で潔癖な〈われわれ〉を実現しようとする動きが起きるだろう（幸いにしてフィジーに
はまだみられていない）。

純粹な〈われわれ〉への熱狂は、他者に対する不寛容さの警鐘⁽¹⁵⁾などものともしないほど魅力的である。魅力を理解するために
は、透明性という観念に目を向ける必要がある。資本主義への包摂がこの観念を喚起することについては、長い論を要しま
いかにも資本主義はブローデルのいうように、非資本主義的な制度や文化に寄生し、非資本主義的なコードから剰余価値を吸い
とることによって存続を保証されるので、包摂の過程で〈遅れ〉を意識した人々はどこかに不正や陰謀や瞞着⁽¹⁶⁾を感じとつたとし
てもおかしくない。彼らはマルクスにならって、等価にみせかけた不平等交換を告訴するかもしれないし、ハンナ・アーレント
のように商品宣伝の魅力に暴力性を嗅ぎとり、暴力をもってこれにこたえようと欲するかもしれない。いずれにせよ、それまで
理解できていた財や労働の流れと分配が、外から流入する貨幣と商品によって変容を余ギ⁽¹⁷⁾なくされたとき、人々は何かしら不可
思議な経済過程に直面しなくてはならない。このとき彼らが、自分と財貨、自分と労働、自分と仲間の中に、再び
で直接的な絆⁽¹⁸⁾を取り戻したいと願うのはまったく自然な流れといえる。

民族主義、原理主義、あるいは熱狂的な共同体運動が基礎をおく〈われわれ〉の感情は、陰謀や瞞着を極端に嫌い、互いがで
きるだけ透明となつて高い理想に向けて努力しあうことを原則とする。透明性の追求そのものは芸術や経済思想にも広くうかが

われ、現実によくの人々を魅了してきた理念である。問題は透明性が同一な「われわれ」に向けて問われるとき、すなわち「本当の「われわれ」⁽¹⁷⁾」という問いを間断なく発するとき、かぎりない自己言及の中で回収しきれない「われわれ」をたえず発生させるために、目標への到達を永遠に「遅れ」させてしまう点にある。いわゆる原理主義の

18

的な欠陥とは、透明性を求

めることではなく、透明性を厳しく追求するほどにそこへ到達できなくなることにある。

（春日直樹『「遅れ」の思考 ポスト近代を生きる』による）

問1 傍線番号(1)「固有なもの」と一般的なものとあるが、「固有なもの」に当てはまるものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 現在の世界各地
- ② 八七年のクーデター
- ③ 一定の同胞と敵
- ④ 「本当のフィジー人」
- ⑤ 道を踏み外した裏切り者

問2 傍線番号(2)・(6)・(9)・(10)・(15)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

19
～
23

(2)

高ヨウ

- ① 子どもをヨウ育する
- ② 社員として採ヨウする
- ③ ヨウ点を押さえる
- ④ 犯罪をヨウ認する
- ⑤ 国旗を掲ヨウする

(9)

政ジヨウ

- ① 非ジヨウ階段を使う
- ② 土ジヨウを改良する
- ③ ジヨウ熱的な人
- ④ ジヨウ例を制定する
- ⑤ 自意識過ジヨウな人

(15)

余ギ

- ① 貨幣をギ造する
- ② 行ギよくふるまう
- ③ 次の打ち合わせのギ題
- ④ 同音異ギ語を調べる
- ⑤ 利用者の便ギを図る

(6)

カイ顧

- ① 組織のカイ革を進める
- ② 電車のカイ数券を買う
- ③ 監督をカイ任される
- ④ 甲州カイ道沿いをゆく
- ⑤ カイ護の仕事をする

(10)

ケン勢

- ① 社会に貢ケンする
- ② 人ケン費がかかる
- ③ 優勝のケン外に出る
- ④ ケン著な特徴がある
- ⑤ 人ケンを尊重する

問3 空欄番号

3

に入る表現として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

24

- ① 自己本来の姿を見失ってしまうために
- ② 回収しきれない自己がつねにあらわれ出てしまい
- ③ 他者との違いを認めることができず
- ④ 自己の中に多くの過去が並存していることに気づき
- ⑤ 世界はその間も絶えず変化し続けるために

問4 傍線番号(4)・(5)・(13)・(14)・(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

選びマークしなさい。

25

29

(4) デイレンマ

- ① 自己の思い通りに事が運ばず、いらいらしている状態
- ② 心の中にわだかまりがあり、きつぱりと決断できない状態
- ③ 目的が達成されず、中途半端ですっきりとしない状態
- ④ 問題を正確に把握することができず、混乱している状態
- ⑤ 相反することの板ばさみになって、決めかねている状態

25

(5) 同定する

- ① 区別して認識する
- ② 変化しないものと考える
- ③ 他のものと同様に扱う
- ④ 全員が納得する形に導く
- ⑤ 共通点と相違点を明確にする

26

(13) 警鐘

- ① 現在不正が行われていることを人々に知らせること
- ② 厳しく悪事を取り締まり、治安を保つこと
- ③ 良くない事態が起こらぬように注意を呼び起こすこと
- ④ 大きな災いが襲って来るのを予想すること
- ⑤ 厳罰を下すことで、悪を根絶すること

27

(14)

瞞着

28

- ① 抜け目がないこと
- ② ずぼらなこと
- ③ ひそかに結託すること
- ④ ごまかすこと
- ⑤ 抜け駆けすること

(17)

間断なく

29

- ① 時機を気にせず、思いつきで
- ② 前後の脈絡に関係なく、唐突に
- ③ 間をおくことなく、即座に
- ④ 深い考えもなく、安易に
- ⑤ 途切れることなく、いつも

問5 空欄番号

7

16

18

に入る語として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一

つずつ選びマークしなさい。

30

1

32

30 7

- ⑤ 非科学
- ④ 不確定
- ③ 不可視
- ② 不可逆
- ① 不可避

32 18

- ⑤ 具体
- ④ 相對
- ③ 拔本
- ② 致命
- ① 暫定

31 16

- ⑤ 論理
- ④ 實用
- ③ 可視
- ② 政治
- ① 仮想

問6 傍線番号(8)「裏側では抑圧された別の語りの群れがうごめき始める」とあるが、それはなぜか。その説明として、最も適

切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 一方ではなるべく多くの理想の姿を探そうとし、他方ではそれを一つにまとめようとする矛盾した行為だから
- ② 争いと裏切りに明け暮れた過去の中では、理想のフィジー人を見出せず、幻想を追い求めることになるから
- ③ 多くの理想のフィジー人が確かに存在したが、その姿は一定せず、複雑な歴史の中でつねに変化してきたから
- ④ 一つの語りを始めれば、それが権力によって弾圧されるため、さまざまな語りを用意しなければならぬから
- ⑤ 過去の入り組んだ事情のため欠如感が生じ、一つの物語で理想のフィジー人を代表させることは不可能だから

問7 傍線番号(1)「問題は、『本当のフィジー人』が一つの語りにおさまりきらないということではない」とあるが、では筆者

は真の問題はどういうことであると考えているか。その内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 透明性を追求して資本主義の論理を克服しようとするほど、観念的になって実践からは遠ざかること
- ② 透明性を追求して他者を排除しようとするほど、暴力の応酬が生まれ、平和の実現が困難になること
- ③ 透明性を追求して一元的な自己像を求めようとするほど、〈遅れ〉を意識してしまうこと
- ④ 透明性を追求して高い理想に向けて努力しようとするほど、そこから脱落する人が出てくること
- ⑤ 透明性を追求して資本主義を排除しようとするほど、剰余価値を搾取されてしまうこと

問8 傍線番号(12)「統一的で潔癖なへわれわれ」を実現しようとする動き」とあるが、その具体例として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① かぎりない自己言及
- ② 「本当のフィジー人」という考えへの疑問
- ③ 資本主義への包摂
- ④ 熱狂的な共同体運動
- ⑤ 自己内部の曖昧さの許容

問9

本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

36

- ① 資本主義に包摂された人々にとっては、それまでの労働や財のあり方が大きく変化し理解不能となっていくことが、透明性を求めることにつながっていく
- ② 〈遅れ〉を取り戻すためのあらゆる試みは、それを求めれば求めるほど失敗に終わるしかなく、〈遅れ〉の意識によって個を保とうとすることもまた不可能である
- ③ 透明性という観念の追求は、資本主義に包摂された人々の間にのみ見られるものであり、芸術や思想の分野には見られない特殊な理念である
- ④ 〈遅れ〉を意識した人々は、過去の想起によるさまざまな物語を紡ぎ出し自己を主張するが、その際、同胞と敵をどのように同定するかはつねに固定化されている
- ⑤ 新しい世界で立ち遅れたという意識は、昔のすぐれたものからも遅れているという意識と背中合わせになっており、その二重性はやがて一つの自画像へと収斂していく

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

坂東のある山寺の別当^(注1)、学匠^(注2)にて、弟子・門徒多かりけれども、年たけて、中風^(注3)し、床に臥^ふして、身は合期^(注4)せずながら、命は長らへて、年月を送るままに、弟子ども、看病し疲れて、果ては打ち捨ててける。いづくともなく、若き女人一人来^{きた}つて、「御看病申さん事いかに」といへば、弟子ども、「然⁽¹⁾るべし」とて許し、えもいはずねんごろに看病しける。「いかなる人ぞ」と問へども、「迷者^(注5)にて候ふ。人に知られ参らすべき者にも非⁽²⁾ず」とて、つやつや名乗らず。

余りに有り難く看病し、月日も経⁽⁴⁾にければ、この病人申されけるは、「仏法・世法の恩を蒙⁽⁵⁾る年ごろの弟子だにも、捨てて侍るに、これ程にねんごろに看病し給⁽⁷⁾へるは、然るべき先世⁽⁶⁾の契りにこそとまで有り難く思ひ給ふるに、いたく隠し給ふ事こそいぶせけれ。仰⁽⁸⁾も、いかなる人にておはず」とあながちに問ひければ、この女人申しけるは、「実に今は申し侍らん。これは、そのかみ、思ひかけぬ縁にあひて、思ひの外なる御事の候ひける、某⁽⁹⁾と申す者の女なり。其⁽¹⁰⁾れには知らせ給はねども、母にて候ふ者の、『汝⁽¹¹⁾はかかることにてあり』と申ししかば、我が身には、心ばかりは、御女⁽¹²⁾と思ひ給へて、あはれ、見奉り、見え奉らばやと、年ごろ思ひ侍りつるに、この御病に、御看病の人も疲れて、事欠けたると承りて、御孝養に、心安く、あつかひ殺し奉らんと、思ひ立ちて候ひつる」と、泣く泣く語りければ、病人も、まめやかに、志のほどの、哀れに覚えて、涙もかきあへず。「然るべき親子の契りこそ、哀れなれ」とて、互ひになつかしき事にて、終⁽¹³⁾に最後まで看病せられて、心安く終はりにけり。

(無住『沙石集』による)

(注1) 別当——僧位の一つ。(注2) 学匠——仏道を修めて師匠としての資格のある者。

(注3) 合期せず——思うように動かない。(注4) 迷者——行く当てのない者。

(注5) あつかひ殺し奉らん——お亡くなりになるまでお世話申し上げよう。

問1 傍線番号(1)・(2)・(11)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマ

ークしなさい。

37

39

(1) 然るべし

37

- ① 慈悲深いことだ
- ② そうなる運命だ
- ③ 奥ゆかしいことだ
- ④ よいだろう
- ⑤ 喜ぶだろう

(2)

えもいはず

38

- ① 不十分ながら
- ② もちろんのこと
- ③ たいそう
- ④ 黙々と
- ⑤ 間違いなく

(11) 年ごろ

39

- ① 今日まで
- ② 年を取るまで
- ③ 一年の間
- ④ 長年の間
- ⑤ 一生の間

問2 傍線番号(3)・(6)の「れ」と文法的に同じものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

40	(3)
	・
41	(6)

- ① (薩摩守は) 日ごろ詠み置かれたる歌どもの中に、秀歌とおぼしきを、……俊成卿に奉らる
- ② 知らぬ人の中にうち臥して、つゆまどろまれず
- ③ 葉師仏の立ち給へるを、見捨て奉る悲しくて、人知れずうち泣かれぬ
- ④ 九月二十日のころ、ある人に誘はれ奉りて
- ⑤ しつべき人もまじれど、これをのみいたがり、物をのみ食ひて、夜ふけぬ

問3 傍線番号(4)「経にければ」の文法的説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

42

- ① ナ行上二段活用動詞の連用形＋過去の助動詞の已然形＋順接確定条件の接続助詞
- ② ナ行四段活用動詞の連用形＋過去の助動詞の已然形＋順接仮定条件の接続助詞
- ③ ハ行四段活用動詞の連用形＋完了の助動詞の連用形＋過去の助動詞の已然形＋順接確定条件の接続助詞
- ④ ハ行下二段活用動詞の連体形＋断定の助動詞の連用形＋完了の助動詞の已然形＋順接仮定条件の接続助詞
- ⑤ ハ行下二段活用動詞の連用形＋完了の助動詞の連用形＋過去の助動詞の已然形＋順接確定条件の接続助詞

問4 傍線番号(5)「申さ」・(7)「給へ」・(10)「給へ」の敬意の対象の組み合わせとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から

一つ選びマークしなさい。

43

- | | | | | | | |
|---|-----|----|-----|----|------|----|
| ① | (5) | 女人 | (7) | 別当 | (10) | 別当 |
| ② | (5) | 女人 | (7) | 女人 | (10) | 別当 |
| ③ | (5) | 女人 | (7) | 別当 | (10) | 女人 |
| ④ | (5) | 別当 | (7) | 女人 | (10) | 女人 |
| ⑤ | (5) | 別当 | (7) | 別当 | (10) | 女人 |

問5 傍線番号(8)「いたく隠し給ふ事こそいぶせけれ」の口語訳として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマ

クしなさい。

44

- ① 女人在かたくなに素性をお隠しになるのが不審だ
- ② 女人在下心を隠しているご様子なので気が休まらない
- ③ 病人が痛みを隠していらっしゃるのが気の毒だ
- ④ 病人が女入との関係を秘密にしたいご様子なので気がかりだ
- ⑤ 弟子たちがひどく隠し事をなさるので気が晴れない

問6 傍線番号(9)「実に今は申し侍らん」の口語訳として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 本当にもはやありのままに申し上げるのがよい
- ② 本当に臨終となったので本当のことを話しましょう
- ③ 本当に今となっては真実を申し上げます
- ④ 本当に今こそ事実をありのままに話すべき時です
- ⑤ 本当に死に際となったので真実を申し上げます

問7

傍線番号(12)「泣く泣く語りければ」とあるが、この時の女人の気持ちを説明したものととして、最も適切なものを、次の①

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

46

- ① 素性の分からない自分を快く受け入れてくれ、娘として父を看病し孝養を尽くすことができたのは、父の優しさのお陰だと感動している
- ② 父を慕う気持ちから看病に努め、娘として名乗りをあげることはできたが、父に見捨てられた母のことが思い出され悲しみに沈んでいる
- ③ 親子の対面を無事に済まし、父の看病を手厚くしようと思ったのに、既に父の寿命が尽きようとしているのを知り悲嘆に暮れている
- ④ 手厚い看病を通して父への親しみがわき、無事に親子の対面ができたことを母に知らせることができると思い、嬉しさがこみ上げている
- ⑤ これまで素性を隠して父の看病に努めてきたが、ついに娘であることを名乗って積年の思慕の情を伝えることができ、感極まっている

問8 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

47

- ① 仏法に従い世話をしてきた多くの弟子たちに見捨てられた別当は、仏道そのものに懐疑心を抱くようになった
- ② 別当の看病に疲れた弟子たちは、別当の娘だと名乗る女人を山寺に呼び寄せて、別当の看病に当たらせた
- ③ 自分の素性を母から知らされていた娘は、別当である父が病氣であることを知り、看病のために山寺を訪れた
- ④ 看病のために訪れた女人が、実は自分の娘であることを知った別当は、過去を反省し娘に心から謝罪した
- ⑤ 弟子たちに見捨てられた後、自分の娘に助けられた別当は、仏法よりも肉親の情愛の大切さを痛感した

問9 『沙石集』は説話集であるが、説話集でない作品を、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

48

- ① 今昔物語集
- ② 山家集
- ③ 宇治拾遺物語
- ④ 古今著聞集
- ⑤ 発心集